

若手技術士たちはどこへ行ったのか？

Where have young engineers gone off to?

1 若手技術士合格者は全体の「4割」

日本技術士会のCPD行事に参加した際に、若手技術士が少ないと感じることはないだろうか。当会の技術士第二次試験合格者情報によれば、過去10年間の20、30代の合格者は全体の4割前後と安定している。若手技術士たちは技術士となった後、どこへ行ったのだろうか。

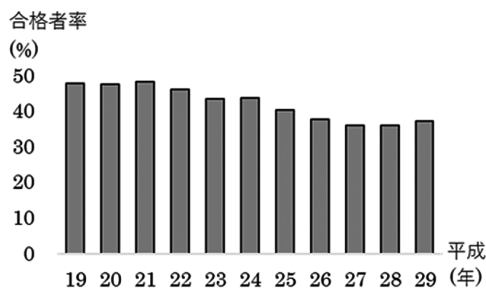


図1 20、30代の技術士第二次試験合格者割合

2 CPD行事は「最高の研鑽場」

若手技術士の参加の少ないCPD行事ではあるが、そこは様々な年代、分野の技術士が集まり、知識や人脈を広めるのに最高の場である。技術面、人間面で高尚な技術者と“技術士仲間として”気軽に対話ができるのも魅力の一つである。私はCPD行事に参加し、優秀な技術士たちと出会い交流することで、たくさんの刺激を受けて成長に繋がったと実感している。

3 日本技術士会の「課題と問題点」

技術士制度の目的である「科学技術の向上と国民経済の発展に資する」ためには、未来を担う若手技術士の能力向上は必要不可欠である。能力向上のためにはCPD行事への参加が有効であり、より多くの若手技術士をCPD行事へ参加させることが課題であると感じる。

CPD行事に若手技術士が少ない主な理由として二点考えられる。一点目は、技術士のうち8割以上が企業内技術士であり、若手技術士は仕事で責任ある役職を任される時期であること。二点目は結婚・育児のライフイベントが生じることで

田中 仁美 (たなか ひとみ)

技術士 (生物工学部門)
30歳代 2017年入会



統括本部

日本たばこ産業 (株)

e-mail : usagigumo1202@gmail.com

ある。仕事でもプライベートでも若手技術士たちはあちこちでまさに“引っ張りだこ”だ。

私自身も企業内技術士であり、フルタイム勤務で3歳児の子育てをしながら時間の合間を縫ってCPD行事に参加している。もっとCPD行事に参加したいが、現実には厳しい。

4 問題点の「解決案」

若手技術士がCPD行事に頻繁に参加するためには、技術士活動を業務の一環とすること、もしくは家族の理解・協力を得ることが有効であると考える。そのための具体案を挙げる。

企業と連携したCPD行事を企画し、技術士活動が会社業務にも貢献することをアピールする。家族も参加できるCPD行事を開催することで、その有意性を実際に見て理解してもらう。研鑽した企業人や家族が、技術士を目指し始める可能性も大いにあり得るのではないだろうか。

5 抱負は「出会い、成長、そして貢献」

素晴らしい出会いは人生を豊かにする。私がこれまで出会った技術士たちは、志が高く前向きで積極的である。彼らの考え方や生き方から良い刺激を受け、私の人生はより豊かになったと感じる。

私自身も相手に良い影響を及ぼす技術士になりたい。これからも多くの方と出会い刺激し合うことで、自分や相手の人生をより豊かにしたい。そのような出会いの延長として、技術士として社会に貢献したいと強く思う。



写真1 国際技術者会議に参加して